

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりの笑顔を大切に」を理念とし、その人の思いを受けとめられるサービスを提供していきたいと思っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は知っているもののそれを日常のケアにどのように反映していけばいいのか？と言った点がまだ、理解不足な気がする。利用者を大切に思う気持ちはあるが業務の忙しさに流されてしまっている。	○ 朝のミーティング時、理念の再確認を取り入れながら業務に取り掛かりたいと思っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	定期的な推進会議を持つ事により地域の方もホームに来所される事が多くなり自然と利用者とも関わられるようになってきた。	○ ただ、推進会議をするだけでなく入所されている方の日頃の表情を見てもらえるような工夫を取り入れている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽にあいさつ等声をかけあったりしているが、ホームに立ち寄る事はあまりない。庭に犬がいるので庭で犬と関わっている時に一緒に雑談をする程度である。	○ 「近所とスタッフは顔馴染みとなっているが、入居者は特定の方しかわからない」
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加している。敬老の日や小学校の運動会のご招待等ある。	○ 地域住民には高齢者が多いが認知症を理解されるのが難しい様子である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今のところそのような取り組みはない。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	可能などころから少しずつ改善していきたいと思っている。	○	デッキテラスの導入や寿楽便りの発行等少しずつではあるが改善している。もう少しケアの質面でも改善していきたいと思う。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際、評価への取り組みの報告だけではなく実際に入居されている方の表情をみていただきたく一緒に過ごせる時間ももうけている。		意見等をお願いするが「グループホームがなにか？」と言う所がわからなく意見出来ない。との声が聞かれた。勉強会等取入れたたりホームからの発信をもう少し多くした方が良かったと思った。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者ととの連携はなかなか困難なものがある。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ご利用者の中で成年後見制度を利用しようとしている時に話し合いまではいかないが、その人のケースをもとに、このような制度がある事や流れ等話したり小冊子が送られてきた時等みんなに読んでもらう程度である。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	以前の虐待事件（TV等で）時は話し合いをもったり運営推進会議の議題としてもとりあげている。日頃の利用者の表情や行動、入浴時の全身状態の観察は気をつけている。	○	言葉での暴力（意図的ではないが）・尊厳・プライバシーの保持等まだまだ気を付けなくてはいけない取り組みが必要だと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時やホーム見学時は、ご家族とご本人と一緒に来られるように声かけしている。体験入所を繰り返してその都度、情報をえるように心がけている。		管理者だけではなく気軽にスタッフにも声かけできる体制があると良いと思う。小さな疑問や不安のうちに改善、解決しながら信頼関係を築きあげていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の中で意見を言える方は管理者や家族・スタッフに意思表示をされている。また、来所された家族がホームの事について情報提供をしてもらえる。		管理者だけではなく気軽にスタッフにも声かけできる体制があると良いと思う。小さな疑問や不安のうちに改善、解決しながら信頼関係を築きあげていきたい。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「寿楽便り」や「月末の請求」にてご利用者の日頃の様子や購入物品の明細をお知らせしているが、職員の移動については書面でのお知らせはしていない。		
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、来所やお泊りされているご家族よりメールや声かけ時にお話を聞くようにしているが来所回数少ないご家族に積極的にこちらから声を拾い上げる機会はまだない。	○	来所回数の少ないご家族に来所回数を増やせる取り組みを検討中である。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの声はミーティング時に機会をもうけている。また、常時、意見をもってきてくれると思う。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者の状況等により柔軟なシフトで対応している。(朝番導入・遅番の時間変更等)		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>スタッフの定着化が難しく困難である。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム協議会等の研修には可能な限り参加しているがその他の研修はなかなか参加困難である。計画的な研修参加、段階別研修等再度、考えていきたいが人員不足もありなかなか機会がない。</p>		<p>人員確保に努めケアの質の向上をはかっていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入し交流する機会をもうけている。また、交換研修等実施している。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>現状、取り組めていないと思う。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>現状、取り組めていまいと思う。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談や入所見学にはゆっくり時間をかけ、ご本人の希望やご家族の抱えている悩み等聞きだせるよう配慮している。また、状況によってはご家族とご本人別々にお聞きすることもある。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	今まで在宅でお世話されていた介護者を否定することなく受容的度で接している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在、どのように生活されてどのような状況か？ご本人の在宅希望が強い場合、利用可能なサービス等で可能性はあるのか話をお伺いしながらすすめている。また、在宅生活に限界を感じられる(介護者の精神的面で)方もいるので初期対応の見極めは丁寧に時間をかけながら対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所をもうけている。期間等は個人個人によって違い状況やご本人の様子をみながらすすめている。体験入所には必要であると感じた時はご家族にも参加していただいている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	重度化が進むにつれて身体的ケアが多くなると「ケアしている」と勘違いしている様な行動が目立ってきたように感じる。一緒に過ごし喜怒哀楽は共にしているものそこから何を学びどうケアに結び付けていくべきかが足らない様子。	○ 「ケアの質の向上」と思っている。研修とまでいかななくてもその都度気になる場面にはアドバイスしているがなかなか浸透していかない管理者としての能力不足を反省しなくてはいけない。人員不足を改善し研修参加に取り組むたいが求人募集にも反応はないのが現状である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	個々のケースによって違っている。来所回数が多いご家族には情報提供しながら一緒にどのようにしたら良いのか相談することができるが、来所回数の少ないご家族はなかなか喜怒哀楽を共にするというのは困難である。		どのように生活されているのかお知らせを入れたり、電話にてお話ししようとしているが金銭的な物には比較的応じていただけるものの、来所をお願いすると軽く流されてしまう。入所前のご家族とご本人の関わり方が影響している面もある。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族とご本人の橋渡しの役目をスタッフが行なうこともある。来所時に息子と分からず「どなた？」と言っているもふとした時に「長男が来た。」と話されるとそのときの様子を息子さんにお知らせし、「また来所してくださいね。」と言葉かけをする。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係や懐かしい場所等訪問希望をご家族にお伺いするが「知人にはホームにいることは言ってないので困ります。」「認知症と言っていないので」等消極的である。	○	中には自宅に行ってお線香をあげてくる方、実母との最期のお別れにスタッフが同行すれば参加可能ですと家族に言われお別れの出来た方もいる。家では会えなかった親戚が来所されたり実家には泊まりにくかった娘さんが泊まりにきてくれるケースもある。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い入居者同士の組み合わせに配慮しているが時として派閥？のような感じを受ける場面もある。同じ人とばかり接するのではなくスタッフが間に入り他の人とも話せるように工夫している。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も連絡を取り合ったりするケースもある。また、新しい環境に慣れた頃施設に面会に行ったり、入居者のかたから「あのおばちゃんどうしたろうね？」と言われると一緒にいたりする。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前やケアプラン作成時には特に気をつけている。その人らしさを大切に問題点は何なのか？スタッフにとっての問題点なのか？可能な場面を引き出していけば問題点とされやすい周辺症状は軽減されることもある事をスタッフに話している。居心地の良い場所を提供できるようなケアをと思う。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報収集には時間をかけうまく聞きだせるような話しかけに配慮している。また、ケアマネからの諸情報も有効に活用している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録の他、重点ケアの日を利用し記録に残すようにしている。	○ 現在の状況を総合的に把握できるよう定期的な評価をしていきたい。(現在は不定期な為)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	今まではホーム独自の方法で実施していた。ご利用者に一番近いスタッフを中心に方向性を指示し作成していた。	○ ケアマネの作成したケアプランをスタッフが日常生活にあった工夫をしながらまた、家族の意向もききながら完成できるように取り組みはじめた。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ミーティング時(月1回)に経過報告をし他のスタッフと情報交換をしている。また、緊急性のあるものに対しては連絡事項ノートを利用している。	○ 現状に即した新たな計画の取り組みがなかなか出来ず月1回のミーティング時となってしまっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、夜間記録、重点ケアの記録等を活用しながら参考にしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	民間単独のホームの為、個々の状況にあった対応は可能である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校からの運動会の招待状をいただいたり、散歩時校庭内に入らせていただいたりしている。消防署とは消防訓練を通してどのような方が入居し非難時どこにいるか話あったりしている。	○	ボランティアの導入を検討している。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホーム入居となると他のサービス利用は困難である。また、必要性を感じても利用料の支払いが困難である。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ運営推進会議の参加時に情報交換をしているのみである。	○	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケア関係者で話し合う事もあるが話し合う機会が設けられなかった時には今までの日常生活様子や特別な関わり方等詳細に申し送るよう心がけている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	時折、聞こえてくる言葉にドッキ！とさせられる。ちょっとした言葉の使い方や、声の調子や早口等その都度アドバイスするがなかなか改善されない。	○	職業意識・専門性に乏しい感じがある。研修参加後一時的に改善されるが継続しない。比較的、若いスタッフは良いが年配スタッフになると難しい。スタッフ入れ替えも検討しているがなかなか確保できず頭をいためている。反面、良いところもあり良いところを伸ばしきれない管理者の管理不足を反省。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思いや希望が伝えられるような声かけへの配慮、またいろんな事柄に対し「選択できる」と言う機会を持てるように気をつけている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの過ごし方を把握しているが、時としてホームサイドの都合を優先してしまう事がある。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望にて近所の床屋や美容室を利用している。また、髪型等可能な方はリクエストしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	最近では発揮できる場面が少なくなっているが食器洗い・食器拭き・ランチマット干し等お手伝いしていただいている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	特に禁止しているものはないが喫煙に関してはホーム管理としていたことがある。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おおまかな時間は設定されているが一人ひとりの排泄リズムを基本にしたトイレ誘導を心がけている。また、拒否の強い時は無理強いせず様子をみながらの声かけに努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在の状況では希望の通りの入浴ができない。1F・2Fと一日おきとしその日の中である程度時間の幅をもっている。また、入浴中はスタッフと一対一になれるのでゆっくりお話ししたりしながら過ごされている様子。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状況により前夜が睡眠不足傾向であったり、倦怠感がある様子だったり、また、高齢の為、午後の休息をとってもらったりと個別の状態にあわせて声かけしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所前の情報収集だけにたよらず「この人にとって今現在の楽しみ事はなんだろう？」という気持ちを持つようにしている。	○	以前、興味があった事が今現在も継続しているとは限らずあまり固定観念をもたないよう気をつけている。


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金を自己管理されている方はいない。買い物時にお財布を渡しお金の出し入れをご自分でされている方がいたがお財布を持つことにより不穏や混乱を起こしてきたため様子を見ている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	単独での外出は困難な方ばかりなのでスタッフの介助が必要である。その日の希望に対応出来ない事がおおいが重点ケアの日を利用している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	重点ケアの日「その人の日」と言うのがあり個別に可能な希望をかなえられるよう支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等のやり取りはあるが手紙はほとんど無い。		入所期間が長くなるにつれ家族との距離も離れてきている。家族との距離が離れないようお便りや諸行事への参加を促してはいるがより一層の工夫が必要である。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等は決まっていない。気軽に来所できるよう声かけをしている。時には一緒にお茶をしたり食事をされたりしながら過ごされている。	○	ご本人の外出に時折見えるご家族に対し「お茶でもいかがですか」「お部屋で一緒に過ごされてはいかがですか」と声かけしているがホームに立ち寄らず帰ってしまう。ご家族の心の壁が高く悩む事もある。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない工夫はしているが状況により短時間ではあるが車椅子にて腰ベルトの使用をしたことはある。また、家族より安全の確保を優先してほしいとの希望もあり難しい問題である。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関入り口に急激なスロープがありふらつきのある利用者には危険があるため一部鍵をかけている事がある。		
67	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールで過ごされている方の様子は把握しやすいが自室で過ごされている方への配慮が足りない感じがある。	○	なぜ、自室で過ごしているのか？どのように過ごされているのか？ご利用者の心の変化を把握してほしいと思う。また、居室入室時の「ノック」をせずに入室する無神経なスタッフもいた。
68	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知症状の重度化、身体機能の低下によりご利用者よりスタッフの都合でケアをすすめてしまっていることが目立ってきたように思う。	○	困難と思えてもスタッフが見守り、声かけすることにより、傍で寄り添う事により可能な発揮できる場面もあるがスタッフにゆとりがなくなっている。再度、ゆとりを持てる働きかけに取り組みたい。
69	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行時ふらつきのある方、食物嚥下困難傾向にある方、異食傾向にある方、精神薬内服中の方等把握しながら対応している。		
70	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が救急救命の講習を受けているが実践にいかせる工夫が必要と思う。	○	ホーム内で起こりえる急変や事故を想定し定期的に訓練していききたいと思う。
71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の避難訓練は実施しているが地震・水害等を想定した訓練はしていない。	○	夜間の火災発生時ご近所の方の協力をお願いしてあるが実際にご近所の方にどのような手順で協力していただくか詳細はなしであったことはない。ご近所のかたも参加した避難訓練を実施する必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p> <p>入居時にはきちんと説明させてもらっている。また、内服の関係で考えられるリスクや下肢筋力の低下からくる転倒の可能性等をお話し状況の変化をお知らせしている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>バイタルチェックの変化だけではなく表情や行動の変化、入浴時の皮膚の変化等気をつけている。必要時は看護師への報告、管理者への報告をしている。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>現在内服中の薬の作用、副作用が書いてある紙を個人の薬袋に入れてあり薬の準備時に読めるようにしてある。また、新しい薬など開始時には連絡ノートにて注意事項や観察事項を書いてある。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>便秘傾向にある方の把握をしている。また、水分摂取の把握や適度な運動の取り入れ、食事摂取量の変化などにも気をつけている。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>毎食後歯磨きの声かけや援助を心がけている。</p>	○	<p>ブラッシング等不十分な場合の支援がご本人の負担とならないよう配慮しているが難しいこともある。</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>一日の食事摂取量や水分摂取困難な方の水分チェックをしている。また、食事はスタッフも一緒なので一人ひとりの摂取状況や状況の変化に対応しやすい。</p>	○	<p>栄養バランスは家庭内で配慮している程度で、時折知り合いの栄養士にカロリー計算をしてもらいアドバイスをうけているがマンネリ化傾向にある為、短期間ではあるが宅配業者の取り入れを検討している。(現在、お試し期間である)</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	各機関から発行される小冊子を参考にしたり、マニュアルを参考にしたり対応している。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日購入している。また、梅雨時期の生ものは控え加熱して食べる工夫をしている。まな板の区別をする。（肉、魚と野菜類等）まな板・ふきんの消毒、冷蔵庫内の食品整理に気をつけている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に圧迫感があると言われたことがある。花や飾りつけをし可能な時は玄関を開けておき開放的にしてみたが変わりない様子。庭からの出入りの方が来所しやすいようである。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	比較的、生活感はあると思うが季節感の取り入れが視覚的に難しくなってきた。季節の花や飾りつけが混乱の原因になったりすることも張り紙等での工夫が多くなってきたように思う。	○	共有空間での季節感や生活感は困難になっても個室での工夫やホールなら可能な場所もあるので配慮したい。また、視覚的だけでなくその他、食事や音楽鳥の声等工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の構造上難しいが、テラスや廊下等に椅子を設置し自室以外での居場所の工夫をささやかではあるがしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>泊まりの部屋等は特別もうけていない。ご利用者の部屋と一緒に泊まらせていただいている。好みの物等を持ってきていただけるよう声かけはするがあまり協力的ではない。また、異食の心配や転倒時の打撲等の心配をされる家族もあり難しい所がある。</p>		<p>ご利用者に馴染みの物を持ってきてもらう声かけを試みたが「いいのよ、家に置いていて持ってきたら家に帰れなくなっちゃうでしょう」と言われる方もいた。</p>
84	<p>換気や温度調節はこまめに行なっている。また、ホール内でウトウトされている方にはさりげなくバスタオル等で温度調節している。自室ではエアコンの苦手な方、涼しいのを好む方等配慮している。</p>		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
85	<p>社員寮の改修型のホームなので安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>		
86	<p>要介護度の重症化や認知症状の悪化に伴い自立して暮らせる工夫の場面が少なくなっている。</p>	○	<p>日常生活の一部の場面でも自分で可能な場面を見つけ出し支援していけるよう一人ひとりの残存能力を再度、見直す取り組みをしたい。</p>
87	<p>去年、デッキテラスを設け自由に入出入りできるようになった。植木の手入れをされたり、日光浴をされたり、昼食を取ったりと利用している。</p>		<p>洗濯干しをテラス内で出来る工夫をしていきたいと思っている。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開所より6年を過ぎました。当初は認知症の初期～中期の方を対象にしておりましたが、年数が経つにつれゆるやかではありますが症状は進行され現在は、認知症の中期～後期の方がほとんどです。可能な限りの自立支援を心がけ自信につなげていけるケア～少しずつケアの内容も変化しつつあります。現在の残存能力を見極め、負担とならぬよう・混乱を起こさぬような配慮が必要となっています。当ホームの特色は要介護や認知症の程度で退所方向へはもっていかないことです。(例外もありますが)ケースバイ・ケースですが、現在の状況で環境を変えてしまうとうどうなるか?を考えながらその人にとってどのような形で最期を迎えるのが良いのかご家族を含めみんなで検討します。また、入居されている他の方やご家族のご理解も必要です。スタッフには負担がきていると思いますがこの考え方は変えたくないと思います。いつまでも「一人ひとりの笑顔を大切に!」関わっていきたく思います。一般のグループホームから多少ずれてきているかもしれませんが最近ではホーム内のターミナルも検討されていることが多いようです。民間の単独だからできる「独自性」をこれからも発揮していきたいと思っています。